

これからの猪猟

〔21回〕

田宮 治

信念は岩をも通す

日本一の猪猟師になって、誰もが認める素晴らしい猪猟を狙いどおりに実践したいという一念で、

気の遠くなるような歳月を、がむしゃらに独自の猪猟道の構築と、天下一品の猪犬完成のために頑張り続けてきた。

そして、ようやく掲げ続けてきた夢が実を結び、いつでもどこでも、自分と愛犬の力だけで狙いどおりの猪猟が実践でき、簡単に大猪が獲れる面白く楽しい戦術を編み出したのである。

この素晴らしい一戦を丁寧に発信することで、猪猟の頂点までの道順と猪犬完成までの道程を分かっってもらいたいのである。

猪止め犬群の猪止め現場は、絶えず危険と隣り合わせで恐ろしい

ことから、その一戦の場を見聞したり、体験を重ねることで、その危険を楽しんだり面白さに転換させ、安全安心の素晴らしい猪猟を完成してほしいのである。

本来、自分の猪猟を最高にグレードアップして、実践の場で犬たちとともに戦術を学び、極致まで成長させることで、心から楽しみ、感動し、納得できる思いどおりの実戦が可能となる。

それはそれで十分であるが、さらに食欲に単独猪猟と猪犬完成の道を追求め続け、頂点に挑み続けてきた結果、驚くほど実に素晴らしい独自の猪猟道と、一流猪犬群団が完成したのである。

この猪犬群団を自分だけで楽しむ活用するにはもったいない。こは何としても、全国の猪猟人に見せて、「これからの猪猟」の成長戦略の支柱にしなければならぬ

い、と思ったのである。

たかが猪猟や猪犬であつても、これを極致にまで完成して、その頂点に立てるまでグレードアップするには、並の努力で完成するものではない。それこそ、悪戦苦闘の連続の末に、やっと実る汗と涙の宝物なのである。

しかし、どんなに頑張つて作り上げた大切な宝物でも、これを全国の猪猟人に活用してもらわなかつたら、それこそ「宝の持ち腐れ」になる。

私はこれまで万策を尽くして改良し、苦勞の末にやっと編み出した宝物なので、どうしてもこの宝物を全国の数多の猪猟人に広め、その素晴らしいさを分かってもらいたいのである。

その上で、「これこそ単独猪犬の王道である」と、堂々と突き進んでもらい、頂点に立つために

はこの超一流の猪犬群団が必要であることを分かっていたら、この「これからの猪猟」に最大限活用して発展させてもらいたかったのである。

その大事な要点を確実に伝えるために、私は長い年月をかけて、その時々、心に残る一戦や未来まで繋げたい一戦など、どんな戦いにも必ず勝つ究極の作戦をくどいほど繰り返し投稿し発信してきた。

本誌への投稿にあたっては、大切な連載ページの大任を任されているのだから、当然、真実を旨として自分がやり抜いて完成した猪猟道や、その頂点までの近道、猪猟の立役者となる猪犬の仔犬作りから訓練法、さらには実戦における猪犬群の使用法から激戦の必勝に欠かせない猪犬芸完成のポイントまで、独自で編み出した猪猟戦

術の極意を駆使したものを説明してきた。

そして、狩猟界の発展を願い、自分が今できる目いっぱいの実践を一戦一戦信念をもって発信し続けてきたつもりである。

私はこの成長戦略を十分に理解し実践に活用することが、「これからの猪猟」の発展と未来まで繋ぐ大事な道程であると確信している。その思いで、素晴らしい一戦や心に残る要の激戦を、発信し続けてきたのである。

その理由は、猪猟で最も困難な胸突き八丁（富士山で頂上付近の八七〇位の険しい急な登り坂）の乗り越え方や、頂点付近の激戦を、挫折することなく乗り越えて頂点に登り詰めることができるのか、そのプロセス（方法・手順・過程・経過）や、成功の手法をすべて体験に基づいて解説していく、それを確実に伝授することで、大好きな猪猟を未来まで繋ぎたかったのである。

私の押し進めてきた猪猟は「猪犬と登る猪猟の頂点」のとおりであり、何から何までそのすべてが

独自の発想と創意工夫によって完成したものである。この類い稀なる猪犬芸と数多の激戦で鍛え上げた自慢の戦術を、至難の激戦にぶつけているのである。

したがって、この戦略の完成度は極めて高く、最高レベルだと確信している。そのため、よほど猪猟を極めた先達でないとなかなか理解してもらえない。

しかし、この道の名人や達人ともなれば、どんな至難の戦いや極致の猪猟戦略でも、この記事の内容程度は一読したり掲載写真を見るだけで、実戦のすごさや楽しさ、さらに戦いの中に秘められた戦術まで一目瞭然なはずである。

式典に参加して

先頃、全猟から八十周年の功労者表彰の通知が飛び込んできた。

私は驚いて、とても俄かにこの事実が信じられず、この道の先達や猟友に相談してみたが、どの方も「喜んで受けることだよ。見る人はきつちりと見ていたということだよ。おめでと〜う」と言って、わ

がことのように喜んでくれた。

私はとても嬉しく、またより一層の努力をして、全猟への恩返しと、猪猟界の発展のために少しでも貢献したいと思い、平成二十六年十月十日の全猟創立八十周年記念式典並びに祝賀会に出席した。

そこで伝統の全猟を目の当たりにして、数多の先達が堂々と狩猟道を全うし、この晴れ舞台に列席して、一生懸命狩猟界を盛り上げていることを初めて知った。まずその努力と頑張り、驚き、思わず心の中で手を合わせて感謝した。「まだまだこれからだ。この世界も捨てたものではない」と、そんな思いがいっぱい入った祝賀会での談笑の場で、ますます確信となつて、これからの希望が湧いてきた。

本誌でお馴染みの全国の有名な方々が、気さくに「猪猟の記事をいつも読んでるよ。頑張っているね」と話しかけてくれる。本当に今回出席してよかった。

私は狩猟人生のほとんどを全猟の会員として過ごしてきたが、こうした会合に出席したことは一度

もなかった。そんな中で、鳥猟でも鳥猟犬でもない、猪猟と猪犬について、無謀にも本誌に投稿し続けてきたので、心の中では猪猟は的外れ故、全猟全員の方から袋叩きに遭い抹殺されてしまうだろうと本気で思っていた。

それなのに、私の記事を読んでもくれている上に、その努力までも評価してくれている。私は今までの苦勞がやっとな報われた思いで、安堵の胸を撫で下ろし心から感謝した。

振り返れば、長い年月の間、私は大好きな狩猟人生を全猟に置き、多くのことを学んできた。そのお陰で、私の狩猟道も出来上がったと思っっている。

猪犬も思った以上に完成し、全国で猪犬として広く使用されるようになった。その信頼も揺ぎないものになりつつある。

私は猪犬の使用が縁となり、全国の猪猟人との親交を深めてきたが、今ではその数五〇〇名以上に及んでいる。そして、念願だった猪猟の本場である九州の大分県と鹿児島県に、鹿兒島県に、鹿兒島猪犬山彦会の支

部が誕生した。この支部は一月号の名刺交換欄で公開しているのですが、どうかよろしく願います。

私はこのような猪獵人の温かい心の後押しされ、ようやく「これしきのことに負けてたまるか！」の強い思いで、自ら大号令をかけ、また懲りもせず走り出したところである。

前に進む大前提は、あくまでも私の猪獵での生き様に代わりなく、まだまだ激しく厳しい伝承の連続となるだろう。

そんな中でも、相手を思いやる和の精神を大切にし、ゆっくりゆつくりと焦らず、間違っても相手の足を踏まぬよう邪魔せずにどこまでもメンタル面の充実を図りながら、わが押し進める猪獵道の頂点を目指して前進したいと思っている。

次回からは「こんな犬芸ならばこのような猪獵ができる」に戻り、極致のラウンド芸を投稿したいと思っている。(つづく)

狩猟事故防止DVD「運命を分ける瞬間(タイム・ゼロ)」を作成 — 環境省 —

近年、狩猟や有害鳥獣捕獲中の人身事故が多発しており、安全対策の強化が求められています。これらの事故の多くは、基本的なルールを守っていれば防げたものであると考えられています。

そこで、環境省では、狩猟者に「事故を絶対に起こしてはいけない」と強く意識していただくことを狙いとして、事故の再現ドラマ等による映像資料を平成26年12月に制作しました。

本DVDは、主に狩猟免許の更新講習等において活用いただくことを想定し、各都道府県に配布しております。また、どなたでも閲覧できるよう、「環境省動画チャンネル」にも掲載しております。

DVDは以下の全3章で構成されており、近年発生した実際の事故事例を参考に、各章において、事故の再現ドラマ、事故を防ぐためのポイント及び類似の事故事例の解説等で構成しています。

◎第1章 「狩猟中の事故～矢先※の安全不確認～」(収録時間 13分)

<https://www.youtube.com/watch?v=vHk20CaJLTE>

◎第2章 「猟銃の取り扱い～暴発～」(収録時間 9分)

<https://www.youtube.com/watch?v=ekBFTD8ivYg>

◎第3章 「わなによる事故」(収録時間 10分)

<https://www.youtube.com/watch?v=wP0r1ler50A>

また、DVD視聴者の事故防止意識を一層向上させるため、DVDの内容を解説する立場の方(DVDを活用する講習会の講師)を対象とした指導者向け解説書を作成しています。以下からダウンロードできます。

<http://www.env.go.jp/press/files/jp/25891.pdf>

